



# 東京都写真美術館

## 開館 15 周年記念 カフェ・プロジェクト

期間： 2010 年 5 月 15 日（土）～ 8 月 29 日（日）  
第1期 5月15日(土)～6月11日(金) | 第2期 6月12日(土)～7月25日(日) | 第3期 7月27日(火)～8月29日(日)  
会場： 東京都写真美術館 2・3 階ロビー 入場無料  
主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協力： NEC ディスプレイソリューションズ株式会社/株式会社キクチ科学研究所

### 第 3 期上映プログラム

A 7 月 27 日（火）～ 8 月 29 日（日） 10：00～18：00 \*繰り返して上映します

### ジョン・ケージ《ヴァリエーションズ VII》 1966 年

John Cage *Variations VII*, 1966  
DVD / サウンド / 白黒 / 41 分

協力：ジュリー・マーティン (E.A.T.) \* 作品中のインタビューは英語のみ、字幕なし上映



Photo: Peter Moore  
Copyright: Estate of Peter Moore/ Licensed by VAGA

1966 年に、ニューヨークのアーモリーで行なわれた「9 つのタバ——演劇とエンジニアリング」は、アーティストと主催者である E.A.T (Experiments in Art and Technology 芸術と技術の実験) のビリー・クルーヴァーを中心に、ベル電話研究所の科学者たちを総動員して実現したインターメディアのパフォーマンスである。1958 年から偶然性の音楽に取り組んでいたジョン・ケージは、ここで、《ヴァリエーションズ VII》という大規模なライブエレクトロニクスの実験を行なう。「パフォーマンスの瞬間に存在する、あらゆる都市の、世界中の、果ては宇宙の音を使いたい」というケージの要望に応えようと、エンジニアたちは自らの技術を駆使して、会場に 10 本の電話線を設置。ケージはレストラン、NY タイムス社や、マース・カニングハムのスタジオ、テリー・ライリーの自宅など、ニューヨーク周辺の 10 カ所の場所に電話を接続し、受話器をそのままにパフォーマンスを行なう。デイヴィッド・テュードアは受話器で受信した音声を電気信号に変換させ会場に届ける。その他コンタクトマイクからジュースやトースターに至る、さまざまな電子機器を駆使して「瞬間」の音が伝えられる。また、演奏者がパフォーマンスの壇上を上下する動作をきっかけに、音声のオンオフと照明が同期し、会場内、天井などに設置されたスピーカーに音声は連動する仕組みが作られた。このスリリングなパフォーマンスは「音を聴く」という行為から、今日のパフォーマンスや、メディアの問題を考察する上でも、今なお刺激的な実験であり続けている。ジョン・ケージに関わったさまざまなアーティスト、エンジニアのインタビューも紹介。

## 第3期上映プログラム

**B** 7月29・30日、8月5日・6日、8月12・13日、8月19・20日、8月26・27日  
[木金のみ] 18:30～20:00 \*繰り返して上映します

### イエスパー・ユスト作品選～おとこたち・おんなたち

イエスパー・ユスト作品に登場する男性たちは、理性や論理に重きを置く父権的な社会規範に反して、欲望や感傷を、時に無防備な涙や歌唱、身を投げ出すようなダンスで表出する。各場面は、フィクションの装いのなかで、しかし明快なストーリーから切り離され、宙づりにされているがゆえに、観る者の方が、映像化された抽象的な感情の襞をひとつひとつ解くことができるか否かによって、雄弁にも寡黙にも映るだろう。ユストは、メディアによるステレオタイプ的なジェンダー規定の批評という表層的な問題にとどまらず、むしろ感情という目に見えない質感をいかに映像が描写しうるか、あるいは映像の持つ「感情」はいかにして生み出されるかという表現の課題を、シネマの作法をシュミレーションしながら、繰り返し探究しているように思われる。



《至上の楽園》2004

### イエスパー・ユスト《クローム製のセイレーン》2010年

Jesper JUST, *Sirens of Chrome*, 2010

HD>DVDに変換/サウンド/カラー/12分

先ごろ完成したばかりの最新作。タイトルのクローム製のセイレーンとは、キャデラックやロールスロイスといったアメリカ製乗用車のフードに配される人型の装飾のことで、ギリシャ神話から転じて、航海船の船首につけられた魔よけの装飾を模して施されるようになったものといわれる。自動車の街として知られるデトロイト（アメリカ）で、5人のアフリカ系女性をキャストに撮影された。社会における男性の役割と内面性にフォーカスした作品で知られるユストの新機軸。

### イエスパー・ユスト《至上の楽園》2004年

Jesper JUST, *Bliss and Heaven*, 2004

16ミリフィルム>DVDに変換/サウンド/カラー/8分10秒

緊迫感あるハリウッド的な男性性の描写から、一転、男性の秘められた内面世界へと転換する劇的な展開が、スタンリー・キューブリックやディヴィッド・リンチを彷彿とさせる。そこはかたないおかしみとある種の清涼感が漂う代表作。

イエスパー・ユスト/1974年コペンハーゲン（デンマーク）生まれ。2003年デンマーク王立芸術アカデミー卒業。コペンハーゲンとニューヨークを拠点に、ビデオ制作を行っている。「映画」というメディアに触発され、ハリウッド映画の美学、ドラマツルギー、物語性といった映画言語を用いた作品は、世界各国の美術展・映画祭で発表されている。